十二月宝生会　月並能

十二月十三日（日）
午後一時始

演目の解説

13:00

蟻通

シテ　當山　孝道

ワキ　殿田　謙吉
ワキツレ　則久　英志
〃　御厨　誠吾

後見　登坂　武雄
山内　崇生

大鼓　内田　輝幸
小鼓　森澤　勇司

太鼓　三島元太郎
笛　寺井久八郎

地謡　高橋　亘
今井　泰行
佐野　由於
東川　光夫
小林　晋也

能「蟻通」（ありどおし）

玉津島に参詣した紀貫之は、帰道急な雨に遭い、何故か馬まで臥してしまう。そこに傘を差し松明を持った神主の老人が現れ、馬が伏してしまったのは、ここが蟻通明神の門前であり、下馬せずに通ろうとしたためであるとたしなめます。そこで貫之は「ありとほし」の言葉をみに盛り込んだ和歌を詠み、神に捧げると雨も止み、馬も元通りに立ち上がります。神主は和歌の徳を称え、神楽を奏し、蟻通明神は我が名乗って、鳥居の陰に立ち隠れるようにして去って行きます。

14:00

胸突

善竹　十郎

野島　伸仁

〈休憩十五分〉

14:30

梅枝

シテ　田崎　隆三

ワキ　工藤　和哉
ワキツレ　大日方　寛
〃　野口　能弘
間　善竹　十郎

後見　三川　淳雄
佐野　登
水上　優

大鼓　國川　純
小鼓　鵜澤洋太郎

笛　藤田　次郎

地謡　大友　順
金井　雄資
大坪　喜美雄
金森　秀祥
小倉　伸二郎

能「梅枝」（うめがえ）

身延山の僧達は、行脚の途中津の国住吉でにわか雨に会い、宿を借りようと一軒の粗末な家に声を掛けます。主の女が僧達を請じ入れ、そこには舞楽の衣装と鼓が飾られており、女は昔内裏に太鼓と管弦の役を争い破れて討たれ、その夫の僧は話をしかし、まもなく回向を頼む不思議な女の霊は、僧に思う女は消えてしまいます。夜半、舞楽の衣装を着た女の霊が現れ、舞楽をつとめます。現在の富士太鼓の舞楽を強調し、能の思慕様々な色々の曲を訴えます。同じ題材で幽霊になりました。

16:15

乱

シテ　内藤　飛能

ワキ　安田　登

大鼓　柿原　弘和
小鼓　鳥山　直也

太鼓　小寺　真佐人
笛　藤田　貴寛

地謡　野月　聡之
藤井　雅
中村　孝太郎
辰巳　満次郎
當山　淳司

後見　宝生　和英
小倉　健太郎

〈休憩十五分〉

能「乱」（みだれ）

楊貴妃の処に、酒を売る孝行の市で酒を飲んで行くと、いつも立ち寄りの風流な男、思つた高風が名のあつた。不審にを住む「猩々」と答えねると、海中に言る風酌めど尽きぬ酒壷を与えて陽の江の酒を酌み、高風が海中に行く猩々が現れ、舞を行き、高風が海中に舞を常ノ舞が、波の上を乱れる特殊な足遣いをの舞に変わり、そのまま曲名にもなりました。

終演予定　十七時頃

チケット料金

S席　8,000円
A席　7,000円
B席　6,000円
C席　5,000円
D(自由)席　3,000円

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで